

親子ふれあいだより

仙台市立芦口小学校 2022.12.8

No.3

保護者の皆様、「親子ふれあい週間」へのご協力、ありがとうございます。2回目の「親子ふれあい週間」が終わりましたが、いかがでしたでしょうか。子供たちの振り返りや、お家の方のコメントを読ませていただくと、メディアから離れた時間をつくり、いろいろと過ごし方を工夫して取り組んでいただいているようで、取組に感謝いたします。

12月の親子ふれあい週間 12月12日(月)～18日(日)

☆今月は、2年生・5年生の感想を紹介します。

親子ふれあい週間で取り組んだこと～子供たちの記録より

(2年生)

- ・ごはん中はテレビをけす。
- ・お手つだいをしたり、お母さんのマッサージをしてあげました。
- ・しゅくだいやいろんなことを計かくをたててやったら、てきぱきうごけた。

(5年生)

- ・ゲームをやめて勉強する時間を決めた。タブレットを使い終わる時間も決めた。
- ・いっしょに料理をしたりペットのさんぽをいっしょに行ったりしました。
- ・家族4人で1時間30分かけて話しながら折り紙を折りました。すごいむずかしかったけど、完成したら達成感を感じました。

お家の方から

(2年生)

- ・食事中、テレビをつけてしまうことが多く、だらだら食べになっていたのがなくなり、家族の会話も増えて楽しかったです。
- ・たくさんお手伝いをして、母以外にもおばあちゃんやおじいちゃんにも沢山ほめられていたので安心しました。私も一緒にいられる時間を増やしていけたらと思います。
- ・学校や児童館での話が、普段よりも聞けたように思います。

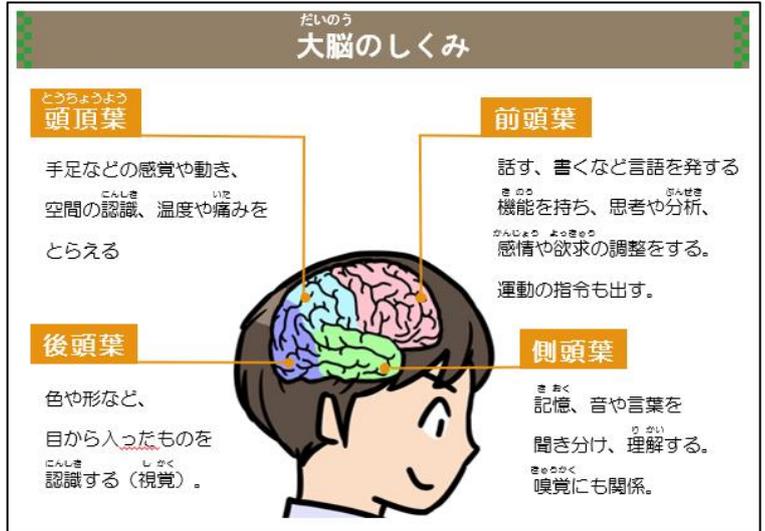
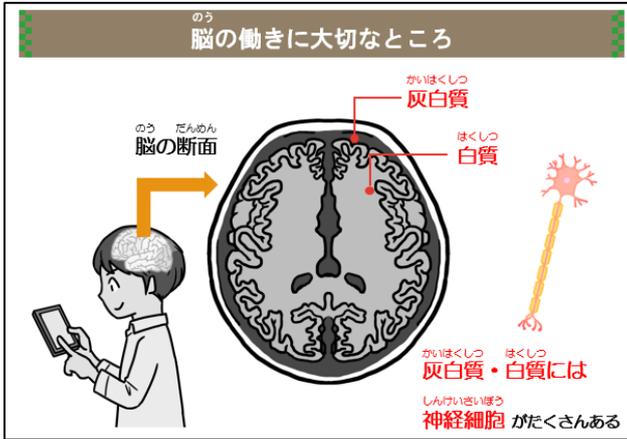
(5年生)

- ・宿題を始める時間をしっかりと決めて、時間になったらゲームをやめることをし、メリハリをつけました。
- ・父とサイクリングに行って楽しい思い出ができました。犬の散歩をしながらゆっくり話したり、一緒に景色を見たりできてよかったです。



～発育測定 of 保健指導より（高学年）～

高学年では、スマホと学力の関係について勉強しました。脳は右図のように4つに分けられ、それぞれ全く違う働きをしています。前回のおたよりでお知らせした、『前頭前野』は前頭葉のおでこの辺りにあたります。



←脳の断面図を見てみると、神経細胞が帯のように並んでいる灰白質と白質があり、ここもまた、脳の働きに大きな役割を持っています。

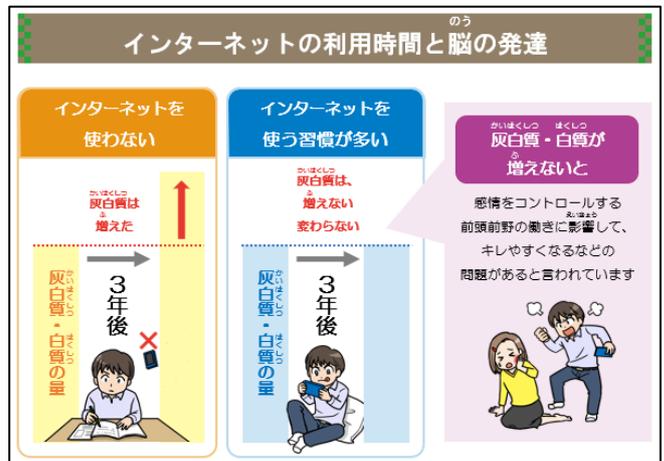
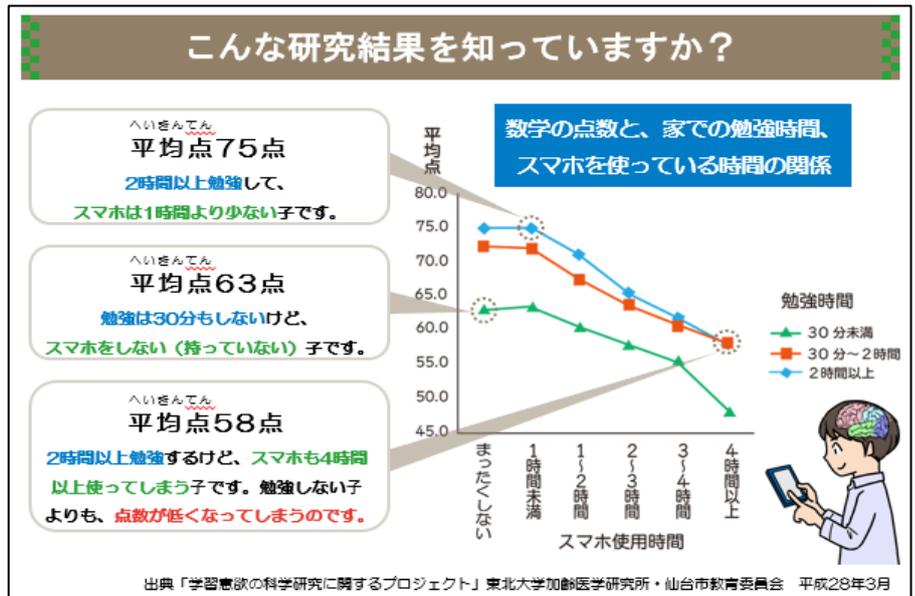
仙台市教育委員会と東北大学の脳科学者川島隆太教授が研究した結果に、右図のようなものがあります。スマホ使用時間とテストの点数を調べた結果、『勉強を30分もしないけど、スマホも全くしない子』より、『勉強を2時間以上するけど、スマホを4時間以上使う子』の方が、点数が低いことが分かったそうです。

また、スマホやタブレットなどでの

インターネット利用時間と脳の発達の間を3年間にわたって調べたところ、インターネットを使わないと脳の灰白質が増え、使う習慣が多いと増えていなかったそうです。

つまり、スマホやタブレットなどの利用時間が、脳の発達に影響を与えていると言うことが、科学的に証明されたと言えます。

子供の脳は、5歳頃までに急速に発達しますが、思考に関する部分は思春期から大人になるまでゆっくり大きく発達していきます。特に、視線を合わせて親子で会話をしたり、子供の行動を認めてすぐに褒めたりすることがよい刺激になるそうです。ぜひ、冬休み中はお子さんと一緒にたくさんコミュニケーションを取ってみてください。



参考文献「GIGA スクール時代のスマホ・ゲーム・ネットリテラシー授業」少年写真新聞社